

News Release

平成 23 年 12 月 28 日
消 費 者 庁

食べ物による窒息事故防止のための情報提供について

年末年始には、もちを食べる機会が多くなります。もちを含め、食べ物による窒息事故の 8 割は子ども・高齢者に起こっています。事故の事例と事故防止のポイントをまとめましたので、ご家庭などでの窒息事故予防に役立てていただきますようお願いします。

1. 食べ物による窒息事故の事例

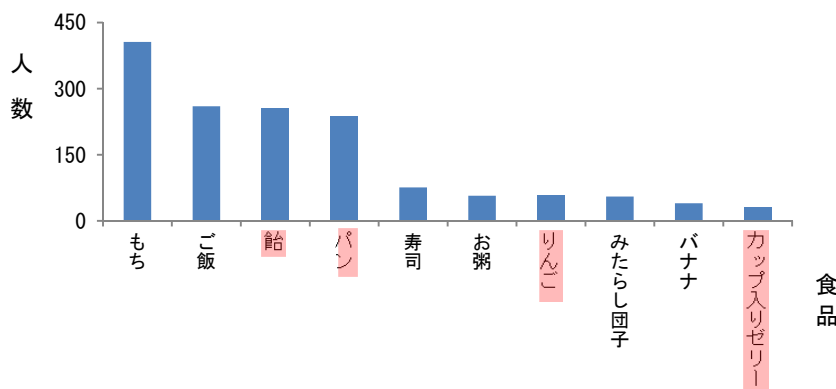
医療機関ネットワーク事業^(注)の参画医療機関からは、さまざま食べ物に関係する窒息事故の情報が寄せられており、死亡事例もあります。例えば次のような事例があります。

- 事例 1 3 歳児がピーナッツを食べた直後にむせ、その後、顔面蒼白になり、意識がなくなった。救急搬送した医療機関で気管支からピーナッツを除去した。(平成 23 年 1 月発生)
- 事例 2 高齢の方がサンドイッチを食べていて、のどに詰まらせて意識を失い、救急搬送したが、病院で死亡。(平成 23 年 2 月発生)
- 事例 3 高齢の方がもちを食べた際、のどに詰まらせ、駆けつけた救急隊がもちを摘出した。(平成 22 年 12 月発生)

(注)「医療機関ネットワーク事業」は、参画する医療機関(平成 23 年 12 月時点で 13 機関)から事故情報を収集し、再発防止に活かすことを目的とした消費者庁と独立行政法人国民生活センターとの共同事業です。

窒息事故が発生した食べ物には、もちのほか、ご飯、飴、パンなど、多岐にわたっています。

窒息事故が発生した食べ物の例



は、12 歳以下の子どもで重症・重篤・死亡の被害が発生した食品

出典：「食品 SOS 対応プロジェクト報告」(平成 22 年 7 月 16 日)
〔食品・製品に関する平成 18~20 年の救急搬送データ(東京消防庁管内)による窒息事故の詳細分析の結果〕

2. 食べ物による窒息事故を防ぐために

お子様や高齢の方などが窒息事故に遭わないよう、まわりの方は次のようなことに配慮して下さい。

- 食品を小さく切るなど、食べやすい大きさにする。
- 一口の量は無理なく食べられる量にする。
- 急いでのみ込まず、ゆっくりとよく噛み砕いてからのみ込む。
- 食事の際は、お茶や水などを飲んでのどを湿らせる。
- 食事中は遊ばない、歩きまわらない、寝ころばない。
- 食べ物を口に入れたまま、喋ったりしない。
- 食事中に、驚かせるような行動をしない。
- 乳幼児の食べ物について、その商品等に表示されている月齢などは目安であり、食べる機能の発達には個人差があるため、食べている様子をよく観察して食品を選ぶ。
- ピーナッツなどの豆類は、誤って気管支に入りやすいため、3歳頃までは食べさせない。
- 介護を要する方などは、粥などの流動食に近い食べ物でものどに詰まることがあるため、食事の際、介護する人やまわりの人は目を離さない。

なお、窒息事故が起きた場合の応急手当の方法については、別紙のとおりですので、あわせてご活用ください。

本件に対する問合せ先
消費者庁消費者安全課 金児、滝
TEL : 03 (3507) 9201
FAX : 03 (3507) 9290
H P : <http://www.caa.go.jp/>

応急手当の方法

([改訂3版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに] より引用)

傷病者に「のどが詰まったの？」と尋ね、声が出せず、うなずくようであれば窒息と判断し、ただちに行動しなければなりません。

- 119番通報するよう誰かに頼むとともに、ただちに以下の方法で異物の除去を試みます。
- なお、傷病者が咳をすることが可能であれば、咳をできるだけ続けさせます。咳ができれば、異物の除去にもっとも効果的です。

①腹部突き上げ法(ハイムリック法)

- 腕を後ろから抱えるように回します。
- 片手で握りこぶしを作り、その親指側を傷病者のへそより上でみぞおちの十分下方に当てます。
- その上をもう一方の手で握り、すばやく手前上方に向かって圧迫するように突き上げます。



腹部突き上げ法
(ハイムリック法)

②背部叩打法

- ひざまずいて、傷病者を自分の方に向けて側臥位そくがいにします。
- 手の付け根けんこうこつで肩胛骨の間を力強く何度も連続してたたきます。
- 背部叩打法には、上記の側臥位のほか、座位や立位による方法もあります。



背部叩打法

ポイント

- 妊婦(明らかに下腹が大きい場合)や乳児に対しては、腹部突き上げ法は行ってはいけません。②の背部叩打法のみを行います。
- 横になっている、あるいは座っている傷病者が自力で立ち上がれない場合は、②の背部叩打法を行います。
- 腹部突き上げ法(ハイムリック法)と背部叩打法の両方が実施可能な状況で、どちらか一方を行っても効果のない場合は、もう一方を試みます。